



岐阜県養老町 高田祭

江戸時代宝暦九年（1759）に始まる高田祭は、毎年5月の第3週の週末に行われます。

きらびやかに飾り付けられた三輦の曳軸ひきやまが優雅な笛や太鼓の調べを奏でながら高田の町の中を曳かれ、愛宕神社（祭神は火の神）まで来ると順番に獅子舞やからくり人形の舞を奉納します。

その後、愛宕神社の祭神が御旅所に神幸しんこう（渡御）し、これに三輦の曳軸が随行します。夜になるとたくさんの提灯ぼんぼりや雪洞に飾り付けられた三輦の曳軸に随行されて愛宕神社へと祭神が還ります。

高田祭の三輦の曳軸しょうじょうやま（西町 猩々軸りんわせいやま、東町 林和靖軸かぐらししやま、下川原の神楽獅子軸）は江戸時代、宝暦十二年（1762）に初めて曳かれ、寛政六年（1794）の高田の大火によって焼失。その後、天保元年（1830）から安政四年（1857）までかけて再建され、今に受け継がれています。

三輦の曳軸は台車から上が回転できる全国的にも大変珍しい構造になっており、昭和55年に三輦そろって岐阜県重要文化財に指定されました。

西町 猩々軸しょうじょうやま 猩々軸では雌雄二体の猩々のからくり人形が能「猩々」を演じます。

（猩々は中国の伝説上の赤い顔をした大酒飲みの動物）狭間さまを飾る彫物「松鷲の動と静」は信州諏訪の三代目立川和四郎、四代目専四郎の作で曳軸本体とは別に県の重要文化財に指定されています。

東町 林和靖軸りんわせいやま 林和靖軸では林和靖・唐子・鶴のからくり人形が林和靖の故事を演じます。

林和靖りんわせい（967～1028）は実在した中国北宋の詩人で、鶴と梅を愛し、名利を好まず郷里の杭州、西湖の畔に隠棲する有徳の人でした。

下川原 神楽獅子軸かぐらししやま 下川原の獅子舞には、若連中が舞う「乱獅子」と年寄りによる「大神楽」「鈴の舞」「お福」があります。乱獅子は「でんぐり」と呼ばれ、若衆が繋がったまま後方転回をする曲芸です。

「大神楽」「鈴の舞」は災厄や疾病から身を守り、「お福」は多産と豊穰を祈願して舞います。



西町 猩々軸しょうじょうやま



東町 林和靖軸りんわせいやま



下川原 神楽獅子軸かぐらししやま